

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 追手門学院中高等学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒567-0008

大阪府茨木市西安威 2-1-15

E-mail

Website http://www.otemon-jh.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 644 名 女子 602 名 合計 1246 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～18 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「独立自強 社会有為独立」を学院理念として、ESD をその学院理念の実践の場として捉えている。ESD の実践を通して、教員・生徒ともに、主体的に他者と協働し、新たな価値を創出する力の育成を図り、また、この学びをプラットフォームとし、各教科の授業内容がつながることを目指している。

具体的には、高 1・2 の総合学習の授業、ユネスコ国際研究部の活動を柱に、①学内の社会問題への意識の啓蒙活動、②「いのち」に係わる教育、③海外の学生との文化比較学習、④ボランティア活動および学習を行った。

### ① 学内の社会問題への意識の啓蒙活動

本校生徒は、社会にある問題には関心が薄く、行動範囲も極めて限られており、学校行事やクラブを除いては学外での活動にはほとんど参加していない。その結果、非常に狭い視野に基づいた狭い範囲の思考しか働かない状態である。そこで、ユネスコ国際部が、文化祭での発表を皮切りに、2 学期以降は週に 1 度、定例でのプレゼンテーションを実施し、学内の課題意識を向上させる取り組みをした。

生徒昇降口前の吹き抜けでの実施だったので、下校途中の生徒やクラブが終わった生徒などが通りがかりに見学をしていくような場面もあり、活動を広げる手がかりを得た。

## ②「いのち」に係わる教育

高校1・2年生においてそれぞれ週に1単位の総合学習を実施し、食育・死生・環境・防災・SDGsの講座を実施した。

## ③海外の学生との文化比較学習

インドネシアの中学生21名と、本校高校1・2年生の23名が、約3時間の交流をした。平日と休日に分けて日常生活を表にし、それをベースに班ごとにディスカッションをし、気が付いたことを発表した。

## ④ボランティアに係わる学習

茨木市福祉協議会の協力を得て、デイケアセンター・こども園・養護施設・こども食堂など、主に夏期・冬期休暇中にボランティアに参加した。学習支援教室には、日常的に通っている。また、同協議会の職員を講師に招いてのボランティア講習会を実施した。



①文化祭での発表の様子



②総合学習「世界一大きな授業」ポスター



③インドネシア交流会・グループディスカッションの様子



④ボランティア講習会の様子

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

世界一大きな授業
----------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程の中では、高1・2の総合学習（1単位）を、ESDにつながる活動の時間に充てている。総合学習では、「豊かな人生（いのちの学習）」をテーマとして、食育・SDGs・環境・防災・生と死の講座を設けている。指導内容を共有するために、担任と総合専門教員のチームティーチングで授業を行い、数年で「全ての教員」が関わることで学校文化としていきたいと考えている。学期ごとに振り返りの時間を設け、当初の狙いに沿って力をつけることができたか（生徒）、つけさせることができたか（教員）をアンケートで自己評価し、次の学期が始まるまでに総合学習担当部署で分析をし、授業の進行方法を検討している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

そもそも2年前に「新たな総合学習」としてスタートした講座であるが、学校全体で作っていくために、テーマを「いのちの学び」とし、各教科で教科内容と関連させて提供できる内容を考えた。その中から、適切なものを選び出し、講座を実施している。担任が必ず自クラスの授業を担当すること年、総学習担当部署の教員が進行役を務めることで、数年で「全ての教員」に経験してもらい、誰が担当してもある一定の安定感が期待できる講座にしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価としては、自己評価という観点で学期ごとにアンケートを実施している。その中で、成果としては多くの生徒にとっては狙いに対しての自信の活動とそのレベルを確認することができたことである。課題としては、「正解」に慣れている生徒の中には、数値などで「正解」や「数値」が伴わないとモチベーションがあがらない生徒があり、動機付けの難しさと大切さが浮き彫りになった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

大阪ユネスコスクール協議会に参加させていただき、ESD パスポート発表会にて、本校の実践を発表した。各校の発表が、1冊の冊子として記録・保存されている。発信することで、活動に対して外部から評価をいただくことで自信を得た。また、他校の発表を聞いて本校にも取り組みそうなことがわかり、次年度の活動のヒントとなった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

現在のところ、特筆すべきことはない。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

3年目にして、大阪ユネスコスクール協議会を通しての活動は安定してきた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

総合学習の授業が、いわゆる AL 型の授業展開をしているため、教員にとっては授業を従来の形から、現在求められている形への転換のヒントになるという点、また生徒にとっても協働したり、正解のない課題に向き合い、意見交換をしてそれぞれの「最適解」を見出す良い訓練の場となっている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

次年度も、総合学習とユネスコ国際研究部の活動を中心に、学内の ESD への意識を向上させたい。

総合学習に関しては、昨今の状況も鑑みて、全ての学習の中心に据え、各教科の授業改革の軸になるような取り組みにしていく。そのためにも、次年度入学生からは、SDGs に関する探究活動を高校 2 年生の学びの中心に据えたいと考えている。

また、ユネスコ国際研究部に関しては、茨木市福祉協議会との強いパイプができたので、ボランティアを通じた地域貢献、地域活性化に重点を置く一年とする。2019 年度は新キャンパスに移転をし、茨木市のスマートコミュニティ構想の一角を担うことができるよう、地域の諸団体と連携を図る。具体的には、高齢者と未就学児をつなぐことで、少子高齢化社会を支えられるような仕組みを開発できるよう、取り組んでいきたい。